別紙様式

令和５年３月３日

教育長　様

校番　92　　尾道商業　高等学校長
（　全日制　課程）

「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る
学科等の特色を生かしたカリキュラム開発研究指定校
令和４年度　実施報告書

１　学校の教育目標等

⑴ 教育目標

商業教育の拠点校として，根拠に基づいて考えを発信するとともに，周囲の人を巻き込んで行動できる人材を育成する。

⑵ 育てたい生徒像及び学校として育成を目指す資質・能力

・根拠に基づいて自分の考えを発信できる（自己理解・自己管理能能力）
・役割を果たす場面で，周囲を巻き込んで他者と協働して行動できる（人間関係形成・社会形成能力）
・課題解決場面で新たな価値を創造できる（課題対応能力）
・社会人に求められる資質・能力のスキルアップに取り組むことができる（キャリアプランニング能力）

⑶ 学科等の特色

今年度より新学科「情報ビジネス科」がスタートし，カリキュラムも１年生で「ビジネス基礎」（ビジネス探究），２年生で「ビジネス探究ＥＥ」，３年生で「課題研究」を柱にプロジェクト型学習を行っている。また，生徒の興味関心に応じて授業を選択することができることや，様々な授業でプロジェクト型学習を行うなど，主体的・対話的で深い学びを展開できることが特徴である。

更に，デザイン思考を３年間学ぶことができ，論理的思考やクリエイティブな思考も学ぶことができる。

２　研究の概要

⑴ 学科等の特色を生かしたカリキュラム開発の重点目標

プロジェクト型学習の推進を通して，主体的・対話的で深い学びを実現させ，生徒自らが自発的に学びに向かうことのできるカリキュラム開発を目指す。

⑵ ２年後の目指す学校の姿

プロジェクト型学習による教育のメリットについて全教員が共通認識をもち，教科の特性を踏まえた上で全ての教科において，主体的・対話的で深い学びを実践することにより，学校で行われる教育活動の全てにおいて，生徒自らが主体的に考え，自発的に決定し行動できる生徒集団を育成する。

⑶ 令和４年度の目標

ア　アウトプット（活動指標）

プロジェクト型学習を行う「ビジネス基礎」（ビジネス探究）の授業において，単元ごとのルーブリックを作成し，プロジェクト型学習をどの教員でも行えるようなシステムを構築するとともに，ルーブリックに基づいた評価をクラウド上で行い，指導と評価の一体化を行う。この「ビジネス基礎」（ビジネス探究）を本校のカリキュラム開発の核となる授業とし，公開授業を通して教員間の学び合いを行い，プロジェクト型学習のメリットについて全教員で共通認識を行い，各教科において主体的・対話的で深い学びの導入に結び付ける。

イ　アウトカム（成果目標）

・「ビジネス基礎」（ビジネス探究）の全ての授業においてルーブリックを完成させる。

・上記ルーブリックをクラウド上に示し，全ての単元についてルーブリックに基づいて評価し，生徒に示す。
・「ビジネス基礎」（ビジネス探究）の授業を常にオープンな授業とし，担当以外の教員がいつどのタイミングでも参観できる授業として位置付ける。
・各教科において「ビジネス基礎」（ビジネス探究）をモデルとし，主体的・対話的で深い学びに繋げる。

(4) 令和４年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

ア　カリキュラムの核とする教科・科目等名

商業・「ビジネス基礎」（ビジネス探究）

イ　カリキュラム開発の概要

本校では，「ビジネス基礎」（ビジネス探究）の授業を核としてプロジェクト型学習を推進し，教員の意識を高め，全教科において主体的・対話的で深い学びができるカリキュラム開発を目指す。

具体的には，生徒に課題を見い出させ，情報を収集分析し，協働学習を通して表現させることにより，学ぶことの楽しさや，自分の将来についての可能性に気付かせ，生徒自らが進んで学習することを促すことができるような授業展開を様々な授業で行う。

また，「ビジネス基礎」（ビジネス探究）の授業において，指導と評価の一体化を進めるために，クラウド上でルーブリックを作成し，教員が共通の価値観をもち授業を実施するとともに，ルーブリックに基づいた評価を単元ごとに生徒に示し，個別最適化に繋げる取組を実施する。その取組をモデルケースとして全教科の授業に結び付けるために，「ビジネス基礎」（ビジネス探究）の授業を常に公開し，様々な教科でプロジェクト型学習への共通理解を図る。

ウ　校内体制

カリキュラム開発を全教員が参画して行うために，校内研修会を活性化させる。そのために，「ビジネス基礎」（ビジネス探究）の授業を校内で常に公開し，その内容を教科を超えた教員集団で協議・研修を行い，そのことを踏まえてカリキュラム開発を進める。

生徒の学習状況の評価についても「ビジネス基礎」（ビジネス探究）をモデルケースとし，協議・研修を行う。

(5) 学習評価

各単元においてルーブリックを作成し，生徒の態度や成果物により，生徒の資質・能力の育成状況を見取り，学習や指導の改善に生かす。

(6) カリキュラム評価

生徒・教員に年度末にアンケートを実施し，アンケート結果をカリキュラムの評価とし，カリキュラムの改善に生かす。

３　令和４年度の成果及び課題

(1) 成果

令和４年度に行われた生徒質問紙では，「自分たちの学校がどんな資質・能力を生徒に育成しようとしているかを知っています。」という問いに対しては 77.0%が肯定的回答，「自分は学校が育成を目指す資質・能力を身に付けていると思います。」という問いに対しては71.8%が肯定的回答であった。これらの回答をもとに本校では比較的，学校の進むべき方向を生徒が理解し，そのことについての資質・能力の育成が行われていると考えられる。

また，核となる授業（「ビジネス基礎」（ビジネス探究））の本校独自の授業アンケートでは，「自ら進んで授業に参加している」という問いに対しては92.4%が肯定的回答，「分からないことがあった時，先生や友達に進んで質問している」という問いに対しては83.7%が肯定的回答，「なぜそうなのかを考えながら授業に取り組むことができている。」という問いに対しては 87.5%が肯定的回答，「学びの成果を実感できる」という問いに対しては84.8%が肯定的回答であった。以上のことから「ビジネス基礎」（ビジネス探究）の授業では主体的・対話的な深い学びの実現ができていると考えられる。

(2) 課題

全教員に向けて「ビジネス基礎」（ビジネス探究）の授業参観を呼び掛けた回数が３回と少なかった。授業担当者との協議において，いつでも誰でもどのタイミングでも授業に参加して良いという取り決めを行っていたが，アナウンスの回数が少なく「ビジネス基礎」（ビジネス探究）の授業に参観した教員の総数が少ないことが課題である。

４　令和５年度の研究目標及び取組内容

(1) 令和５年度の研究目標

ア　アウトプット（活動指標）

核となる授業（「ビジネス基礎」（ビジネス探究））の授業参観回数を増やすため，令和５年度も引き続きいつでも「ビジネス基礎」（ビジネス探究）の授業を公開する。また，公開することを全教員に周知するとともに，積極的に授業参観の呼び掛けを行う。

イ　アウトカム（成果目標）

・「ビジネス基礎」（ビジネス探究）の授業参観の呼び掛けを学期に２回行う。
・「ビジネス基礎」（ビジネス探究）の授業は常に公開していることを全教員に周知する。

(2) 令和５年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

ア　カリキュラム開発の概要

「ビジネス基礎」（ビジネス探究）以外の科目においても探究的な学習及び，ルーブリック評価を推進し，生徒が主体的で対話的な深い学びを様々な授業で実現できるようなカリキュラム開発を目指す。

イ　校内体制

教育研究部が核となり，様々な教科・科目と連携し，積極的に探究的な学習の実施やルーブリックの作成にかかわることにより，取組に関わる教員の負担を軽減し，探究的な学習のメリットを共有する。そのことにより，学校全体として自発的に授業の中に探究的な学習を取り入れていくような教員集団を醸成する。